

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：若手研究 (B)
研究期間：2007～2010 年度
課題番号：19730038
研究課題名 (和文) 英国政府の国際訴訟戦略と戦術の研究

研究課題名 (英文) Litigation Strategies and Tactics of the British Government at the International Court of Justice

研究代表者
喜多 康夫 (KITA YASUO)
帝京大学・法学部・准教授
研究者番号：80307206

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：法学・国際法学
キーワード：国際法学・イギリス外交史・国際司法裁判所

1. 研究計画の概要

(1) イギリスの国際法史におけるイギリス外務省法律顧問の役割に着目し、1946 年から 1960 年までの 9 件の国際訴訟事件におけるイギリス政府の国際訴訟戦略を分析する。

(2) 研究目的は 3 点ある。直接的な目的として、イギリス政府の国際訴訟に関する対外政策決定過程と国際訴訟追行の仕方の解明である。これは、国際法実務にあまり着目してこなかった外交史学にとっては価値がある。第 2 の目的として、国際法の発展を実務家の観点から描くことである。我が国では、国際法の発展を描くにあたっては、国際裁判所の判決の分析か、国際法研究者の思想研究が多く、外交史的手法は珍しいと思われる。第 3 の目的は派生的なものであるが、国際法学でも未発達な国際訴訟戦略論の発展である。このような研究は、我が国の国際法学ではあまり見られない研究であるので、独特な意義があると思われる。

2. 研究の進捗状況

1946 年から 1960 年までのイギリスが当事者となった国際司法裁判所の訴訟事件 9 件のうち、5 件 (コルフ海峡事件、ノルウェー漁業事件、アムバティエロス事件、マンキエ・エクレオ事件及び貨幣用金事件) に関するイギリス政府内部の公文書を The National Archives (TNA) で収集した。2010 年 3 月 31 日時点でファイル数約 3 万枚、フォルダー数 286 個、サイズで 56G バイトの資料を収集した。現在は、上記 5 件の論文を同時に執

筆している状況にある。

3. 現在までの達成度

当初の計画より遅れているのは否定できない。その理由として以下の 3 点が挙げられる。

(1) 予想を超えた膨大な資料数

TNA に所蔵されている資料は膨大であり、1 つの事件の資料を収集するには、最低 2 週間から 3 週間は必要である。そのため、毎年繰り返し資料収集に TNA に行かなければならなくなっている。

(2) 事件の相互関連性

コルフ海峡事件と貨幣用金事件が密接な関係があるのは言うまでもないが、9 つの事件が時期的に重なっていることから、たとえばノルウェー漁業事件と満期工・エクレオ事件のように、お互いに影響を与えていることが資料を収集することで判明した。そのため、複数の事件の資料収集と論文執筆を同時並行的に行わなければならなくなっている。

(3) 学期中の研究遂行の困難さ

夏季休暇中または春季休暇中は、資料収集に励み、学期中は論文執筆に専念するつもりであったが、スケジュールの組み立てのまずさ、授業の準備及び予想外の雑務などでうまく専念することができなかった。

4. 今後の研究の推進方策

上記の反省に鑑み、今後は以下のような方針に切り替えることにしたい。

(1) 事件の資料数と複数の事件の相互関連性についてはやむを得ないと考え、長期的な観点から取り組むことにしたい。すなわち、仮に研究期間が終了しても、当該研究を続行する予定である。

(2) 学期中の研究遂行については、本年度のスケジュール調整はうまくできたので、昨年度よりも論文執筆に集中できると思われる。また行程表を取り入れ、より効率的な論文執筆を心がけるつもりである。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計2件)

「コルフ海峡事件におけるイギリス政府の国際訴訟戦略」(京都大学国際法研究会、平成20年7月5日)

「コルフ海峡事件判決の賠償金に関するイギリス政府の国際訴訟戦略」(京都大学国際法研究会、平成21年3月28日)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕